

◇ 12/7(水) スマイルレポリューション 第12回
「ナラジル、『いのちの場』をめぐるたかひと希望の姿
～アゾン先住民・土地なし農民・リオのスラム」

アゾンの森に生きる先住民の伝統的な暮らし、土地を求め不在地主の土地を占拠し耕作する農民の運動、スラムで居住と生活の権利を求める住民たちの運動を見つめてきた鴨川在住のジャーナリスト・下郷さとみさんのレポート。現地の取材で撮りためてきた多くの写真を上映しながら、伝えてくれます。



14:00～17:00 参加費：無料

場所：里山デザインフアクトリー（鴨川市金東375-1）

共催：鴨川自然王国T&T研究所（04-7099-9011）

連絡先：田中 正治 tel/fax 04-7098-0350 masa-ty@srf.usn.ne.jp

◇ 2/18(土) 坪井 節子弁護士 講演会

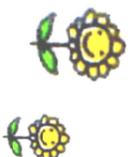
「子どもの声 聴こえますか？ ～真に子どもに寄り添うということ～」

1987年から、東京弁護士会「子どもの人権救済センター」で少年事件の付添人活動に携わる坪井さん。10代の子どものためのシェルターや自立援助ホームを運営してきた坪井さんが、子どもたちの現状、おとなはどうあるべきかを語ります。

10:00～12:00 場所：京北ホール（尺柏駅 東口から徒歩1分）
定員：100人 主催：CAP(キャップ)なのはな 参加費：500円
連絡：申込：磯野 090-2317-0898 yoko-iss@smalpala.or.jp



グリーンズ千葉 は「緑の党 グリーンズジャパン」との連携組織です。ともに、グローバル・グリーンズ憲章の6つの理念
1. エコロジカルな知恵 2. 社会的公正・正義 3. 参加民主主義
4. 非暴力・平和 5. 持続可能性 6. 多様性の尊重 に基づき、
「緑の社会ビジョン」実現をめざします。
271-0092 松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel/Fax 047-360-6064
HP <http://greens-party-chiba.jimdo.com/>
入会・カンパ募集中！！
年会費：会員/3,000円 サポーター/1,000円（郵便口座 00120-1-687008）



Viva! Greens

グリーンズ千葉便り 第12号

—地球規模で考え、活動は足元から—

Contents

- * 「アースデイちば」に出展 (5/22)
- * 深緑の里山にて—鴨川夏合宿 (8/14～15)
- * 勉強会 「対抗戦のリセットへ—参院選の総括と私たちの課題」 (9/11)
- * 「インタビュー」自然と共に生きる人びとの地に戦争へのオスプレイパッドはいらない
「ONE LOVE 高江」 鈴木 祥子さんに聞く
* 稲作22年でやっつと「小学校卒業」
* イベント情報

写真/勝浦市 (Noriko Murayama)

「対抗戦のリセットへ—参院選の総括と私たちの課題」

9/11 ほくとビル会議室

白川真澄さん(ピーブルズ・プラン研究所)を招いて開いた学習会。中長期的展望に立って、現在の政治勢力と社会構造に向けた対抗線を引き直す必要があるとの視点から、参加した29名で活発な論議が行われた。



- 1) 沖縄(米軍基地)、福島(原発と避難者)、山形ほか東北地方(TPP)といった死活問題に直面した地域ではどん詰まりで反転のエネルギーが爆発し、野党共闘が勝利を得た。
- 2) 2020年代不可避の経済・社会構造の大変動を見通し、対抗軸の再設定と対抗勢力の再生を行う必要がある。同時に、改憲阻止運動の思想・理論を構築する。
- 3) 自衛権・自衛隊の違憲性論争を、絶対平和主義の立場から深化させる。
- 4) 少子高齢化、雇用の非正規化といった構造的変動に対してリベラル・左派の側に抜本的な対案が求められている。多国籍企業・富裕層への課税強化、内部留保への課税導入などを実行した上で、不足分を消費税率の引上げで補う。
- 5) 経済成長を前提にした雇用創出や税・社会保障制度に代わるオルタナティブの構想と実験の提示は、グリーン・レポートの特に重要な役割になる。チャンスである。

「アースデイちば」に出展 5/22 稲毛海岸公園

今回16回目となるアースデイちば。グリーンズ千葉でも毎年恒例のこぼえ農園の野菜、ワンコンマツサトシでアースを出しました。晴天に恵まれたこの日、私は妻と娘、息子2人の家族全員で参加しました。家族にとってはフリーマーケットのほか、珍しい飾りや面白い出展物を見るのも大きな楽しみの一つです。都会の喧騒から離れ、オルタナティブな雰囲気の中でゆったりと時間が流れる中で買い物や音楽が楽しめるアースデイちばは、心のりびりになります。

ところで、会場で特に気になったことがありました。流れてくる楽器の音や歌などの音の質がとても良いことです。音響担当で、普段は匠瑛市でソーラーシテリングに取り組む東さんに聞くと実はそう感じる人が多いらしく、太陽光パネルでつくった直流の電気が近くから入ることでノイズが少なくなっているかもしれないとのこと。自然エネルギーが作り出す、もう一つの嬉しいことに驚きました。



一番のサプライズは、メインステージにいたお坊さんキタリスト・大橋さんが突然、緑の党グリーンズジャパン元共同代表の高坂さんと呼んで、二人で「緑の党結党宣言」の歌を歌い始めたことでした。高坂さんは池袋で飲み屋をやりながら匠瑛市で米づくりもしています。2011年の原発事故からもつ5年以上が経ちますが、歌を聴いているうちに、その時の衝撃や決意、そこからの歩みなどが思い出され、また「頑張ろう」という気持ちをもりました。さて私たち家族はというと、お祭りが終わっても只が暮れるまでその余韻にひたりながら、海岸で遊んだり、芝生の上でサッカーをしたりしました。できることなら、来年もまた家族で参加したいと思います。(長谷川 平和)

深緑の里山にて—鴨川夏合宿 8/14、15 鴨川自然王国

二泊三日の鴨川夏合宿に、初めて参加しました。安房鴨川の稲穂が揺れる大山千枚田を抜けると「鴨川自然王国」があります。里山の自然と陣時雨の中で行われる夏合宿はとても有意義です。今年のテーマは、世界の大国アメリカと「中国」。

◆ 二日目、大井 赤亥氏(東大他非常勤講師、36歳)によるアメリカのお話。
〈建国以来、自由平等・民主主義・世界の警察と言われ自由貿易で経済大国、先進強国の国として突き進む中、サブプライムローン、リーマンショックなど金融拡大路線でつまつき貧困格差も広がった。未来予想図的に見ると、今までのような資本主義サイクルには戻らないのではないか?〉



◆ 二日目、矢吹 晋氏(横浜市立大学名誉教授、77歳)から中国のお話。
〈南沙諸島や尖閣諸島の問題など、日本と中国の間にはホガティブな状況が続いているが日本のマスコミ報道は正しく伝えていない、と力説。緑の党は「共同管理」を政策方針としていることを伝えると、それが正しい言われていたのが印象的でした。〉
二日目の午後は 里山デザインフアクトリーを見学。米国人のクリスさんから鴨川の地に展開するコミユニテイの活動を紹介。辛抱よく、柔軟な精神にリズケト。大好きな加藤登紀子さんも参加されて楽しい語らいができた元気をいっぱいもらいました。感謝！ (柘植 扶佐子)

自然の恵みと共に生きる人びとの地に 戦争へのオスワレイパッドはいらない

「ONE LOVE 高江」鈴木祥子さんに聞く

「やんばるの森で起きていること」報告会

11月4日「農民平和会議(※)」では、ONE LOVE高江の鈴木祥子さんを成田にお招きし、高江報告会を行いました。高江の問題は今スコミも取り上げないため、その現状を詳しく知る参加者はほとんどいませんでした。しかし、前日高江から戻ったばかりの鈴木さんの報告は、私たちの心を高江にくつと近づけてくれました。貴重な自然が残る高江に、予告なしにヘリパッド建設が強行されたのは10年前。以来、住民は365日「座り込み」という形で反対の意思を表明してきました。150人の住民が暮らす集落に800人の機動隊や沖縄県警、防衛局職員が押しかけ、連日暴力的に住民を排除し、米軍の基地建設工事を強行的に進めるために法律も憲法も無視し、あらゆる権力行使する異常事態が起きています。



高江の住民と機動隊

これに対して住民は、「非暴力(言葉も含む)、強制しない、いつも愛とエールををモットーに不屈の精神で運動を続けています。重い空気が漂った時こそ歌い踊り、マイクが回ってくれば自分の言葉で心から訴える。彼、彼女らの原動力は、美しい地を次の世代に渡したい、生命尊ぶ高江から戦争に繋がることをしたくない」という強い思いです。これに賛同する仲間が全国、そして世界中から、座り込みに参加しています。同じ問題を抱える特に韓国やフィリピン、グアムからの参加者が多いそうです。市民は国境を超えて連帯しているのです。また、沖縄県内の30カ所以上でスタンディングが行なわれています。鈴木さんたちも、船橋、市川、津田沼、東京都内の駅等でスタンディングを行ない、高江の現状を訴えています。通りすがりの人からカンパや差し入れをもらうこともあるそうです。日本人の多くは無関心と表現されがちですが、



現在強行工事されているヘリパッド(N1)

実は知らないだけなのではないでしょうか。沖縄の現状を知れば、「自分事」として捉え動いてくれる人が、実は多いので

インタビュー

鈴木さん、いまの活動を始めたきっかけは？



はと感じています。

報告会には20数名の参加者がいましたが、鈴木さんの話を聞いて、自然と成田でもスタンディングをしよう」という話が出てきました。来年2月には、高江を舞台にしたドキュメンタリー映画「標的の村」の上映会も企画しています。憲法が無視され、美しい自然が暴力的に破壊されている沖縄に「成田でも連帯を表明しよう」という動きが起き始めました。スタンディングの詳細は今後、会議の中で決めていきますが、日程は11月29日(火)の16~19時の間、参加者の都合の良い時間に京成公津の駅で行ないます。関心のある方は会津までご連絡をお願いします(090-6704-9996)。(会津素子)

※農民平和会議：7月の参院選をきっかけに、ごく自然に発生した、世界で起きていることを学ぶ北総地域の農仲間たちの対話の場

日常の中で自然に政治が話題にされるような家庭で育った影響があるのかな？労働組合で出会った父と母は労働裁判を20年間闘ってきました。私に、どこかに所属しろとか、くするな、などと強制することはありませんでしたね。

2003年に自衛隊がイラクへ派兵され、仲間とテモに参加しました。イラクで3人の日本人が拘束された時には解放を求めて船橋駅前です署名を呼びかけたのですが、これまで政治の話をしたことのないような友人が駆けつけ、ギターで「アミン」を歌ってくれました。

テモで訴えることの意味や大切さが本当にかつたのは、自分たちで脱原発のテモの申請や企画をした3ヵ月以降ですね。

◆九条が、私を本気にさせてくれた

主体的に活動に取り組むようになったきっかけは27歳のとき。たまたま知り合った人が熊本でコーヒー店を営んでいたのですが、そこで販売していたピエーの「憲法9条」のバグー



バグーに条文が

「ふなほし9条の会」に関わっています。仲間の人生の先輩は不屈で、自分が携わり続けることが平和につながっているという確信と希望を持った方たちが多くいます。そういういくつかの縁が重なって、私は平和に目覚めていた気がします。

会津「ONE LOVE 高江」の始まりは？

3年前、友人から沖縄北部の東村高江の米軍オスワレイパッド建設でN4と呼ばれる地区の森を切り裂き自然を抉り取られた上空からの写真を見せられて話を聞いたのがきっかけでした。色々なバックグラウンドをもつ若い8人が集まりました。オリジナルグッズを作製して販売し、その資金で現地に座り込みをする「特派員」を送り、ほとんど知られていないこの事実を、自分たちの目で見てきたことをその人なりの表現で、周りや色々な人々に伝えたら、すごい広がりになるし、なかなか現地に行けない人もグッズを通して応援やアピールに繋がると思いました。

特派員の中には、最初は特派員で行くことに関心が示せなかったけれども信頼している友人の勧めで参加し、その後自分たちの問題として引き寄せて考えようという仲間もいます。インターネットからの情報やつながりだけじゃなく、人とひとの触れ合う中で生まれるものを大切にしたいです。集会やイベントを重ねてきました。今は駅前などでスタンディングというアクションを始め



ONE LOVE 高江 特派員報告会

ています。高江のことを知らない人に、一人でも多く知ってほしい！そして興味を持ってもらうために、発信する側がどんな人に「何を伝えたいのか」といって進めることに向かっています。高江のことを知らない人に、一人でも多く知ってほしい！そして興味を持ってもらうために、発信する側がどんな人に「何を伝えたいのか」といって進めることに向かっています。

◆あきらめずに人に伝えること、顔を突き合わせて話し合うこと

地元の人にテモの話などをすると「こんな所で辛気臭いこと話すなよ」と返ってきますが、次に会った時にはテモいつやるんだよ、行つてやるよ、「反対派も推進派も、どちらの話も聞いたことないから教えて」「高江で不当逮捕、許せない！」と、ずいぶん経つてからふとした時に声をかけてくれる。一度話して反感が悪くても、その人の中に何らかの種は植えられているんだと感じます。だから、チャンスがあれば少しずつ伝えたい。

時どき、考え方が全く違う友達との間で「憲法九条」などについてガチンコの意見をぶつけ合います。酒場とかラーメン屋でも(笑)。私たち



ONE LOVE 高江のグッズと、特派員を募る呼びかけ

が激論を交わせば、周りの仲間も考え話す機会になります。あえてそこを狙って大げさに「テモアたごぶりにしたり。後になつて「あいつあんなこと言っていたけれど、「理あるな」と考える。意見を言い合つて、私も相手も揺れる。そういうこととて大切だと思います。

職場でも、自分の活動の話をたくさんします。同僚も、沖縄の問題を私に質問してくれるようになりました。問題の本質をよく理解している人や、実は9条の条文をすらすら言える人がいてびっくりさせられます。自分の考えを表に出していなかったら、こういうことを話題にするこ



SAVE TAKAE/NO HELIPADの手始めを持って中央が鈴木さん、左がグリーンズ千葉共同代表の会津

とも、互いに何を考えているのか知ることができなかったでしょう。社

会を愛したい！と思うとき、語り合ったりいろんなことを知り共有し、たく熱くつなつてゆく。この平和の輪は、誰にも断ち切れないと思います。

(構成)磯野よう子、真木彩子

稲作22年でやっと「小学校卒業」

数日後に晩生の黒米を刈り取れば、今年の稲刈りが終わる。本格的に米と付き合い22年、やっと何のためらいもなく「食べたくてください」と出荷できる米に仕上がったが、まだまだ小学校を卒業したくらいに段階だ。新入りの除草機「アメンボ号」の効果は絶大、ほとんどの田んぼが軽度の雑草で済み、稲刈りもスムーズ。昨年まではコンバインの中に雑草が何度も詰まり、ベルトが切れるなどしたり様々な部分故障したものだ。草の茎や種が混じらず



千葉県流山市の新川耕地で百姓23年目

や草が分解されないといと引つかかかつて同じことが起こる。アメンボ号がスムーズに作動する田んぼを作らなければいけない。除草剤を撒けばこれらの苦労も簡単に解消するが、でも田んぼの命は激減している。虫も、鳥も、魚たちも。完全に成功したところは8億採れた、全体平均では6億、地域の平均は8億。もう少しで有機農業を他の農家に勧められる。来年は中学生、楽しみである。友が「ずいぶん老けた中学生だね」だつて、ごもつとも。

を乾燥でき、籾溜り作業も難しくなく進み、大粒のきれいな玄米が次々に保冷米庫に収納されていく。ゴミの多い籾は乾燥機の中で流れを詰まらせ乾燥度のばらつきを作り、籾溜り機のトラブルまで引き起こす。仕上がった玄米にも草の種や色のついた米が混ざる。今まではとても自信を持って出すことが出来なかったし、収量も平均5俵にははるかに届かなかった。壊滅的な所が必ず数か所あったためだ。今年も20数枚の田んぼを3回も除草でき、水の管理にもよ

く足が運べた。田植え機の後ろの部分を外し、5条分の除草機を取りつけたのがアメンボ号。乗りながら作業するのに1反わらずか30分もかからず、1反の田んぼの中を3km位歩くので2時間以上かかり、楽なこと、早いこと、天国だ。しかし、果てていたのに比べ、楽なこと、早いこと、天国だ。しかし、ラブルもある。深く耕し過ぎた田では、車輪についた土が苗を埋めていく。またでこぼこが多い場所です除草機の上のコン

(吉田 篤)